

コロナウイルスパンデミックについて 第8報 (2021/1/12)

世界の関心事は何時コロナパンデミックが収束するのか、そしてワクチンは有効なのかに集約されますが、今のところ正確に答えられる人はいません。2020年末、コロナ感染はますます急速に広がっていますので、全く見通しは立ちません。やはり良質なワクチンの大規模接種しかないでしょう。ウイルスを処理、不活化してワクチンとして接種し、免疫反応を誘導する従来型ワクチンに加えて、全く新しい発想の mRNA ワクチンが開発されています (ワクチン開発レース)。100種類を超えるワクチンが開発され始め、現在わずか5種類のワクチンが欧米では第3相臨床試験が終了し、その効果は95%と発表されています。当然ながら安全性に最大限の注意が払われていますが、危機的状況を回避するために米国では緊急時使用許可を得て接種が始まっています。細胞核 DNA の情報は転写というプロセスで mRNA に写し取られます。mRNA は生体にとって必要なタンパク質を生成するための設計図です。mRNA は核内から細胞質に移動し、mRNA に書き込まれている設計図を元に細胞質内のリボソーム (タンパク質製造工場) でタンパク質に翻訳され、細胞や組織で各種の機能を発揮します。mRNA ワクチンではコロナウイルスの抗原として最も特異的なスパイクタンパクの設計図である mRNA そのものをワクチンとして投与し、細胞内のタンパク質合成機構を利用し、スパイクタンパクを合成し、細胞表面に抗原提示します。これを免疫システムは異種タンパクと認識し、コロナに対する抗体産生など防御プロセスを活性化させます。通常新しいワクチン開発は10年という長い時間が必要で、複雑でコストのかかるプロセスです。未だにコロナ感染症の病態把握は不十分で、サイトカインストーム (免疫系の暴走) が起きると重症化すると言われていますが、免疫機構も未解明の中、ワクチン開発レースとなっています。ワクチン開発期間があまりにも短く安全性に危惧を持つ人が多いのも当然で、見切り発車という感はぬぐえません。副反応についても中長期的な視野での検討はなされておらず、これから世界中の10億をはるかに超える人々に接種するのですから、後になって重大な副反応が起こるとしたら、人類の重大な危機となるかもしれません。現在16歳以下の子供に対する接種は承認されていませんので、子供は守ろうという潜在意識が働いているのかもしれませんが？

今回のパンデミックは想定外の事態とはいえません。2018年にハーバード大学で新興ウイルスの人間への感染と流行を如何に早く察知し対応するかというシンポジウムが開かれています。世界は常に新興ウイルスの出現という危険に晒されています。その要因は多岐に渡りますが、人口増加、特にアジア、アフリカなどの熱帯地方の都市に集中する人口。飛行機の発達による膨大な人間の短時間移動 (ウイルス感染の潜伏期よりも短い) により、感染は容易に地域から地球の裏側まで広がる可能性。環境破壊、地球規模の温暖化によりウイルスを抱えた野生動物の人間の居住地域への移動。などが挙げられ、今回のコロナ禍は起きるべくして起きたと言われていています。WHO は3月13日にパンデミック (世界的大流行) と宣言していますが、その時点では世界の感染者数 (診断確定した人数) はおよそ16万人でしたが、新規感染者数の増加は留まるところを知らず現在では70,00万人を超え、死者は160万人を超える勢いです。感染拡大による健康被害のみならず、社会への甚

大な影響、旅行業会のみならず経済的損失は甚大で、誰もが当事者であり先の見通しも立っていません。夢も希望もないレポートになってしまいましたが、重要なのは生き生きと暮らすことで生命力すなわち免疫力を高めることだと思います。